

(様式2)

# 学校関係者評価報告書

愛媛県立松山南高等学校

学校番号(21)

評価実施日		令和2年2月18日(火)	
委員	氏名	所属等	備考
	岡田 紀夫	地元企業関係者	学校評議員
	元永 学	自治会等関係者	学校評議員
	土井 菊子	社会教育団体関係者	学校評議員
	井上 敏憲	学識経験者	学校評議員
	中村 和憲	食文化・料理研究家	学校評議員
	豊田 靖英	保護者	
	西原 朋子	保護者	
	黒河 明美	保護者	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
1 全体について	
南高生の様々な面での活躍を目にする。ホームページで見る生徒の活躍する姿は、素晴らしい。高校生というのはかけがえのない時間であり、多感な時期である。たくさんのことをインプットする時期であり、それをアウトプットするところもいろいろと設けてもらっている。先生方のサポートもありがたい。アウトプットしたものがいろいろな場面で評価され自信になる。学校全体の雰囲気もよく、どんどん進化していると感じる。	今年度の新たな重点努力目標として、全日制は「志高く心を耕し言葉を磨け」定時制は「志の教育一夢に向かって心を耕し言葉を磨け」砥部分校は「夢を育み志高く個性を伸ばす教育の推進」とした。引き続き「志、心を耕す、言葉を磨く、夢」をキーワードとして生徒の知・徳・体のバランスのとれた成長を図るなかで、一人一人の生徒のアウトプットが評価され自信につながり、オール松山南高全体の雰囲気がよくなるよう取り組む。
2 今年度の最終評価について	
(1) 定時制、砥部分校について 定時制生徒はとても落ち着いて学校生活を送っているように思う。また、砥部分校には様々な活躍の機会があり、多様な評価をしてもらえ、それが生徒たちの自信につながる。学校行事や地域での活動をさらに広げていてもらいたい。	定時制は、引き続き愛情と厳しさをもって個々に寄り添い心身ともに健康な生徒の育成に努める。また、砥部分校は、外部からの依頼は生徒にデザインの実践力を身につけさせるよい機会と捉えているので、今後も、依頼主や地域と積極的に協働することで生徒を成長させ、同時に分校の良さを外部へアピールしていく。
(2) オール松山南校について オール松山南校での芸術・文化発表会が素晴らしかった。生徒の活躍は保護者として感慨深い。全日制・定時制・砥部分校の交流の機会は保護者としてうれしい。今の子どもは与えられるのが当たり前になっているが、昔はなくて当たり前だった。そんな今の時代でも不足の思いがある。それが向上心につながるのかもしれないが、高校が教育を受ける最後の機会になる子どももいる。昔を振り返るような機会を与えてやってほしい。	これからも、砥部分校の卒業制作展と芸術・文化発表会を同日開催としたり、より多くの行事で全日制・定時制・砥部分校の生徒が交流できるようにしたりして、お互いの学校のよさを共有することで、オール松山南高の意識を高める。分校生には大規模な発表会に参加できる貴重な機会であるため、今後も可能な限り全員参加させる。
3 説明・公表について	
(1) 説明資料について	

<p>今回の説明資料が、今までより分かりやすくなっていてよいと思う。</p>	<p>資料をわかりやすく読みやすいものにする ことで会議の効率化に努める。</p>
<p>(2) ホームページについて 全日制のホームページの松南日記をよく見ている。様々なことに取り組んでおり、生徒は幸せだと感じる。DIG演習を取り入れた防災についての地歴・公民科の授業が実施されたことは、防災に関わる一人としてうれしく思った。SSHの報告は英語のページもあり、生徒が英語に翻訳していることが素晴らしいと思う。サイトマップを作成し、少し分かりやすくしたらどうか。また、砥部分校のホームページにも多くの成果が紹介されていて素晴らしいと思う。</p>	<p>全日制SSHのサイトマップはさっそく作成した。毎日2500以上のアクセス数を目指し、最新の情報を適切に発信していきたい。また、砥部分校では、独特の行事や様々な入賞作品、外部との連携事業報告等、生徒の様々な場面での活動が生き生きと伝わるようなホームページ作成をしていく。</p>
<p>4 学校運営への提言</p>	
<p>(1) 生徒確保について 生徒確保のために全日制・定時制・砥部分校ともに、今後も魅力ある学校づくりに努力してほしい。</p>	<p>全日制・定時制・砥部分校ともに、それぞれの良さを最大限に小中学生と地域に発信するために常に新しい工夫を凝らしていく。</p>
<p>(2) 高校に期待すること 高校は、仲間作りや社会ルールを教える最後の場所になる。勉強も大切だが、スマホなどでの仲間作りではなく、顔を合わせての仲間作りをしてもらいたい。「機心」という昔の中国の言葉があるが、機械に心をとらわれてはいけない。現在への警告だと感じる。</p>	<p>SNSやいじりに対して、なぜ配慮が必要なのかという根本的課題について理解させ、未然防止を徹底する。また、専門家による研修会を実施し、生徒の情報モラルの向上を図るとともに、生徒から相談があった場合は迅速に対応し、早期解決に努める。</p>
<p>(3) 部活動の補助に関すること 生徒の部活動の活躍が素晴らしい。しかしその分、大会参加補助金等の支出を見ると大きな金額になっている。今後の見通しはどうなっているのか。</p>	<p>今のところは大丈夫であるが、周年行事や全国大会に行った部があるときは、同窓生に呼び掛けるなどの工夫が必要であると思われる。</p>